

感染症とはどんな病気か あなたは正しく理解していますか？

感染症とは、細菌やウイルスなどの病原体が人の体に侵入することによって起こる病気です。感染症は人から人にうつることもあるため、学校など多くの人が集まるところでは特に注意が必要ですが、それを理由に差別や偏見が起こらないよう、正しい知識をもちましょう。





感染症とは
感染症は細菌やウイルスなどの、「病原体」が人の体に入ってくる事でおこる病気です。患者から他の人にうつってしまうこともあります。なぜ病気になるのか分からなかった時代は必要以上にこわがられ、患者に対する偏見や差別が生み出されてきました。

どのように人にうつるのでしょ
うか
たとえば、風邪やインフルエンザ



のように「せき」や「くしゃみ」が出る感染症は、その「しぶき」から他の人にうつります。ノロウイルスなどによる胃腸炎の多くは、手や食べ物についた病原体が口にはいつて、おなかを壊したり、吐いてしまったり、さらにその便や吐いたものに含まれる病原体が手を介して口に入ることなどで次の人にうつってしまう。インフルエンザウイルスもノロウイルスも人にうつりやすい病気なので、人の多く集まる学校では注意が必要です。

エイズ患者に対する偏見の問題

HIVというウイルスに感染すると、徐々に免疫という体を守るしくみが弱まります。すると、健康な時には病気をこささない、弱い病原体が体の中で増えて、病気になってしまいます。この状態をエイズといい、治療しなければ亡くなることもあります。エイズが発見された頃は薬がなく、エイズを過度に恐れた人々によってエイズ患者はひどい差別を受けました。握手や会話、食事などの日常生活ではうつらないことがわかっていきます。また、エイズの発病をおさえる薬もできており、HIVに感染しても長生きできるよ

をもつ人が現在でもおり、HIV感染を理由に職場への採用が取り消されるなどの人権侵害がおこっています。

「レッドリボン」はエイズに偏見を持っていない、エイズと共に生きる人々を差別しない、というメッセージです。



正しい感染症の予防をしましょう

マスクは「咳などのしぶきを飛ばさない」ためには大きな効果があります。手洗いをしっかりすれば手から口に病原体がはいりにくくなります。便や吐いたものも正しく掃除や消毒をすれば感染症の拡大を食い止めることができます。大切なのはこういった正しい感染予防をおこなうことです。感染症になつてしまった人を責めたり仲間外れにしてはいけません。感染症は誰がなつてもおかしくない病気です。感染症の正しい知識を学んで、偏見をもつことなく正しい予防を行い、感染症にかかった人もかかっていない人も生活しやすい社会を実現することが大切です。